

受けていますか？ 乳がん検診。 2年に1度、誕生月の検診を習慣に。

八千代病院では乳がん検診に力を入れています。検診内容について、もっと知っていただくために、皆さまからの疑問や不安にお答えします。



Q. 乳がん検診では、どんな検査をするの？

A. 問診、マンモグラフィ検査、医師による視触診を基本とし、ご希望の方には超音波(エコー)検査も行います。

問 診

問診票に、初潮の年齢や妊娠・出産の経験、乳房の痛みやしこりなどの有無、ご家族の乳がん歴などを記入します。

マンモグラフィ検査

撮影技師が透明な板で乳房を片方ずつはさみ、40代の方は2方向、50代以上の方は1方向から撮影を行います。

視 触 診

医師が問診の内容を確認した上で、左右の乳房に差がないか、しこりやひきつれがないかなどをチェックします。

Q. 検査では何がわかるの？

A. マンモグラフィ検査では、がんの可能性のある1ミリ以下の石灰化やしこりを見つけることができます。石灰化の形や数、広がり方から腫瘍が疑われ、より精密な検査が必要になる場合もあります。また、乳腺の濃度の高い20～30代の方は、マンモグラフィ検査では石灰化や小さなしこりが写りにくい場合があり、超音波(エコー)検査もおすすめています。

Q. 痛みや放射線のことが 気になるのですが。

A. マンモグラフィ検査では乳房をはさむため、痛みを感じる方もいらっしゃいます。ただ、乳房を均等に薄くすることで、乳腺が広がって鮮明に撮影ができ、放射線の被曝量も抑えられるというメリットがあります。検査の際は、我慢できる範囲内で乳房をはさむように配慮しますので、どうかご理解ください。

また、放射線被曝については全国基準を厳格に適用。マンモグラフィ検診精度管理中央委員会より、X線量や画像基準を満たす「マンモグラフィ検診施設画像認定」も取得するなど、検診精度の高さが評価されています。

当院の「マンモグラフィ装置」と「エコー装置」が 新しくなりました！

当院では、より患者さまにやさしい乳がん検診をめざして、2つの最新装置を導入しました。新マンモグラフィ装置は、乳房の圧迫が軽減されて痛みが少なくなった上、これまで以上に被曝線量が減少。さらに、撮影画像をフィルムレス化しデータ保存することで、次回受診時の画像と比較しやすくなり、より正確な診断が可能となりました。

最新型超音波診断(エコー)装置では、最新の映像化技術により、微細な乳腺の石灰化や触診では発見しづらい初期の病巣も診断することが可能です。



マンモグラフィ装置



超音波診断(エコー)装置

Q. 女性技師はいますか？

A. 当院では、皆さまのニーズに応じて女性技師5名による体制を確立し、マンモグラフィ検査はすべて女性技師が担当しています。また、高い技術の証であるマンモグラフィ検診精度中央管理委員会の認定試験

に合格した認定技師を3名配置。検診の精度向上と管理に努めています。

マンモグラフィ検査は、すべて女性技師が担当いたします。みなさん安心して受診してください。



乳がん検診に関するお問い合わせは、
総合健診センター TEL 0566-98-3367 (直通) まで。

数字でわかる!

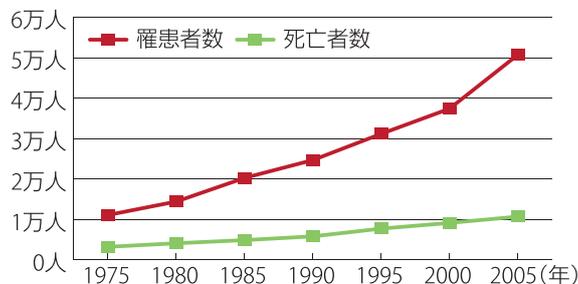
現在、日本女性のがん発生率のトップを占める、乳がん。わが国では1年間におよそ5万人の女性が乳がんと診断されています。決して他人事ではない乳がんについて、正しく知って、早期発見につなげましょう。

乳がんの基礎知識

12人に1人が乳がん。

これまで欧米人に比べて日本人には乳がんが少ないとされてきました。ところが、食の欧米化やライフスタイルの変化に伴い、近年は患者数が急増。2004年には乳がんの患者数は5万人を超え、生涯で乳がんにかかる日本女性の割合は、12人に1人とされています。しかし、乳がんは早期に発見すれば治癒率が高いがんで90%以上が治るといわれています。

日本における乳がん罹患患者数と死亡者数の推移

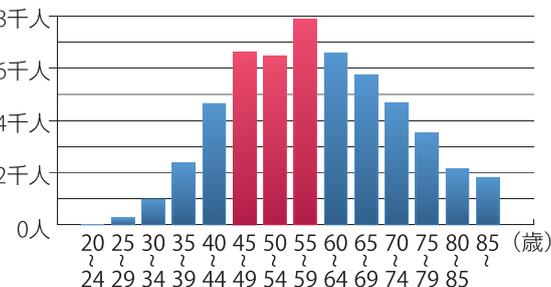


出典：国立がん研究センターがん対策情報センター

乳がんの発生は40～50歳がピーク。

乳がんの発生率を年齢別に見てみると、右表の通り、30代から増加し始め、40～50歳前後でピークを迎え、その後は減少に転じます。しかし最近では、若年層および高齢者の発生率も増える傾向にあり、どの年代でも油断はできません。20代を過ぎたら、「乳がん年齢」と考えたほうがよいでしょう。

日本における乳がんの年齢別罹患患者数(2006年)

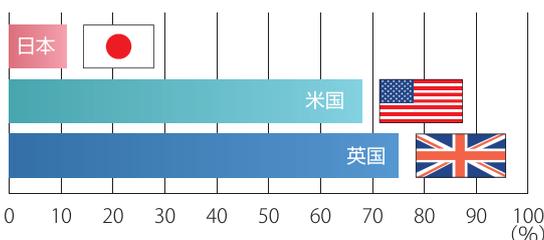


出典：国立がん研究センターがん対策情報センター

日本のマンモグラフィ受診率は、わずか十数%。

乳がんの罹患率が日本の約2～3倍といわれるアメリカやイギリスでは、国を挙げて乳がん対策に取り組んでおり、40～50歳代の女性の約70%が2～3年に1度マンモグラフィ検診を受診しています。その結果、罹患率は高いものの、死亡率は年々減少する傾向にあります。一方日本では、マンモグラフィ検診がまだまだ普及しておらず、受診率は全体のわずか十数%。これはOECD加盟30カ国の中でも最低レベルの受診率です。

乳がん検診受診率の比較



出典：日本/2010年国民生活基礎調査、米国/CDC「Behavioral Risk Factor Surveillance System 2008年」、英国/NHS Cancer Screening Programmes「Annual Report 2009年」

乳がんから身を守るために、乳がん検診を受けましょう。

前述のアメリカやイギリスの例が示すように、マンモグラフィによる乳がん検診は、乳がんによる死亡者を減らすのに有効であることが科学的に確認されています。これを受けて日

本でも、厚生労働省が2004年から「40歳以上は2年に1度」の乳がん検診を推奨しています。

乳がんは早期に発見すれば治る病気であり、近年は有効な治療法も

次々と開発されています。欧米に迫る勢いで罹患率が増加し死亡率も増え続けるいま、乳がんから身を守るために、日本女性も積極的に乳がん検診を受診する必要があります。